

特集

スポーツツリーズムでまちを元気に



日本の空の玄関口、成田空港。同空港を1年間に利用する外国人旅行者数は、東日本大震災を機に一度は減少したものの、再び増加しています(3ページ)。平成26年には、開港以来初めて1,000万人の万台を突破しました。ことし4月にはLCC専用ターミナルもオープンし、今後はますます多くの旅行者が本市を訪れることが期待されます。

旅行者が増加するにつれ、旅の目的も多様化しました。観光客の欲するものが違えば、もてなし方も変わります。今回は、スポーツを主な目的に観光も楽しむ旅行「スポーツツリーズム」における、市の取り組みを紹介します。



支える
Supporting

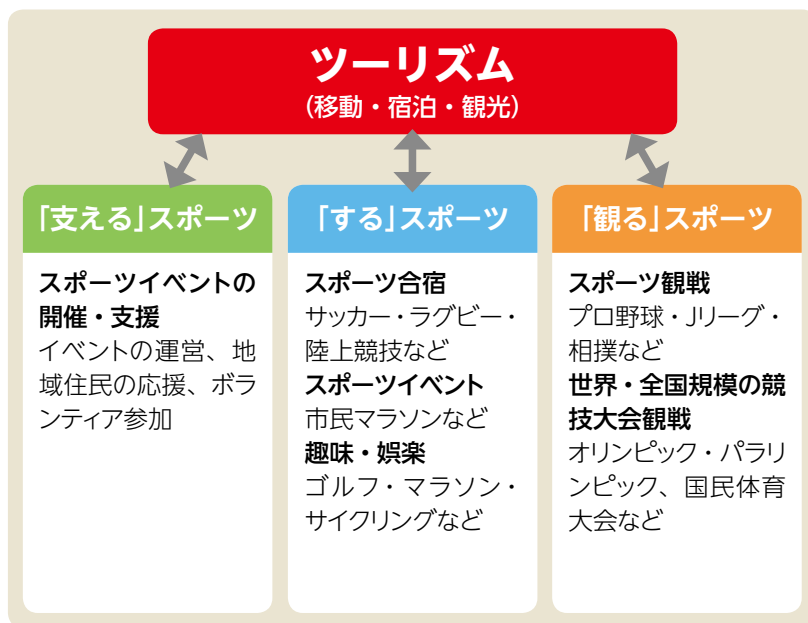
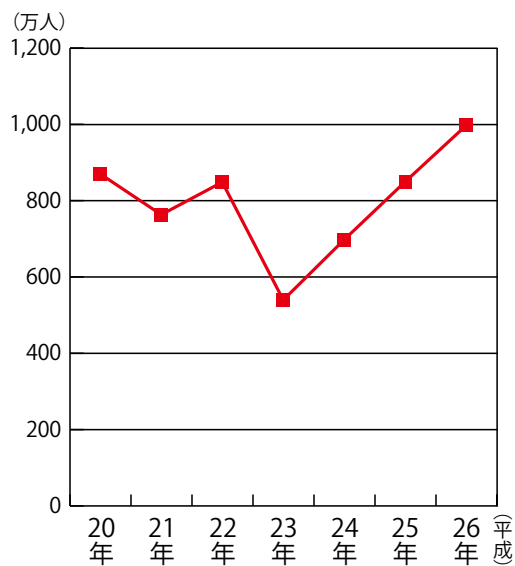


する
Playing



観る
Watching

成田空港を利用する外国人旅行客数



新しい旅のかたち スポーツツーリズム

スポーツツーリズムは、観光庁が新しい観光旅行のジャンルとして、平成22年に提唱しました。国内外からスポーツを目的に集まった人たちに観光も楽しんでもらうことで、地域経済への波及効果と、それに伴う地域活性化などが期待できるとあって、全国から注目を集めています。

例えば、国際大会の観戦者などスポーツを「観る」人たちが、マラソン大会の参加者などスポーツを「する」人たちが会場や宿泊地の周辺を観光することで、新たな消費が生まれる。また、これらの人がボランティアなどスポーツを「支える」人々と触れ合うことで、その地域の良さを知り、リピーターになる。そんな効果が期待できるのです。

スポーツと観光といっても、その結び付け方はさまざま。スポーツツーリズムには、

○スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺観光

○スポーツを「支える」人々との交流
○旅行者が旅先で主体的にスポーツを楽しむことのできる環境の整備

○国際競技大会の招致・開催
○スポーツ合宿の招致

が含まれます。



スポーツで観光客を呼び込め

新しい旅のかたちとして、注目されているスポーツツーリズム。全国的にはどのような取り組みが行われているのでしょうか。そして、本市の場合は、

取り組みは全国で

スポーツツーリズムで観光客を呼び込むには、

- スポーツ大会・イベントの開催
 - キャンプ・合宿の誘致
 - スポーツを楽しむことを主目的とする個人・団体客の誘致
- などが有効です。

新潟県佐渡市では、佐渡島の豊かな自然を生かし、トライアスロン、マラソン、遠泳、自転車のロングライドなどの大会を開催することで島外からの観光客の獲得に成功。これらの大会の平成26年度の参加者は約9、000人、経済効果は約8億5、000万円に上りました。大会後も、島へ渡る汽船の自転車運賃無料キャンペーンを実施するなどして、来訪者の増加につなげています。

また、さいたま市では、さいたまスポーツコミッションを立ち上げ、国際大会の誘致活動を行っています。平成25年には「さいたまクリテリウム



成田キッズ&ジュニアトライアスロン大会



成田POPラン大会



成田ラグビーフェスティバル

b y ツール・ド・フランス」が初開催されました。これは、世界最高峰の自転車レース「ツール・ド・フランス」の名を冠した大会で、本場フランスで行われたレースで活躍したトップ選手も出場。コース周辺には延べ20万人の観客が集まり、大会の様子は世界132カ国で中継されました。

千葉県はサイクリング

もともと「観る」スポーツとして、野球やサッカー、バスケットボールなどのプロチームの本拠地がある千葉県は、スポーツツーリズムが提唱された当初から、その素地があったといえます。

また、県では平成22年から「する」スポーツとして、サイクリングに着目していました。平均標高が全国で一番低い、なだらかな地形という特色を生かせると考えたのです。そこで、トイレ休憩や食事・水分補給ができ、自転車の修理に必要な工具などを貸し出す「サイクルステーション」を県内各所

に設置。モデルコースを策定し、千葉県サイクリングガイドを作成・配布しました。モデルコースでは、市内の坂田ヶ池総合公園や国際文化会館などがサイクルステーションとして、さくらの山や成田山新勝寺が見どころとして紹介されています。

成田の場合は

本市でも、スポーツツーリズムという言葉が生まれる前から、独自の取り組みが始まっています。

その一つが、11月8日(日)に開催される成田POPラン大会です。ことしで29回目となる本大会には、日本中から毎年5,000人以上が参加します。

ほかにも、成田キッズ&ジュニアトライアスロン大会、CTUデュアスロン大会、平成24年から毎年5月に開催されている成田エアポートツーデーマーチも、スポーツを通じ観光客を呼び込むきっかけとなっています。

エアポートツーデーマーチは、成田空港を中心に本市と芝山町に設定された最長30キロメートルのコースを歩くイベント。飛行機の離着陸や参道のまち並み、緑豊かな自然を楽しめるとあって、県内外から航空機ファンなども参加し、2日間の参加者数は延べ2,000人に達します。

また、充実したスポーツ施設を利用して、世界・全国規模の大会やプロス

インタビュー 運営者に聞きました



歩いて成田のよさを知って

やすてる
田口 康光さん(大袋)
成田エアポートツーデーマーチ
運営委員

エアポートツーデーマーチ開催の目的は

成田空港のPRはもちろん、印旛沼など自然豊かな側面もあることを県内外の人に知ってもらおうことです。また、市民の皆さんに、歩いて健康になる喜びを広めたいという思いもあります。

観光に結び付ける工夫は

開催期間を2日間にして、参加者へ市内での宿泊を促したり、ゴール後に市の名産である果肉の黄色いクリームスイカを振る舞ったりして、観光客の取り込みや特産品のPRにつなげています。

参加者を増やすための取り組みは

今後はLCCを使った参加者が増えることが予想されます。そのため、LCCが就航している都市にエアポートツーデーマーチのポスターを貼るなどして、気軽に参加できることを呼び掛けています。



成田エアポートツーデーマーチ



全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法

ポーツの試合なども行われてきました。最近では、平成26年8月に、全国高等学校総合体育大会の柔道と少林寺拳法が市体育館を会場に行われ、選手やコーチ、観客など、延べ2万8,248人が来場しました。12月には同じく市体育館で世界サンボ選手権大会も開催され、世界81カ国から434人の選手が参加。観客と合わせて延べ3,634人が本市を訪れました。

一方で、一流選手を招いて試合やトークショーなどを行う成田ラグビーフェスティバルなど、選手との交流やスポーツの普及を目的としたイベントも開催されています。

スポーツ最大の イベントが開催

東京オリンピック・パラリンピックの予想来場者数は、延べ1,000万人。大会前にも、関連行事のほか、さまざまなイベントが行われると考えられます。

また大会直前には、世界各国のチームが国内で事前キャンプを行います。開催に向けて日本への注目が集まる中、こういったキャンプの受け入れは、国内外に向けて各自自治体をPRする絶好のチャンス。地域のスポーツチームのレベルアップや施設の有効活用のほか、たくさんの方が訪れることによる地域の活性化も期待されています。

事前キャンプを成田に

大会期間中に成田空港を利用する旅行者を市内観光に誘導するためにも、PRは不可欠です。本市は平成16年に「スポーツ健康都市」宣言をして、スポーツを通して健康な心と体を育み、友情と触れ合いの輪を広げ、世界の人々と交流して明るいまちを築くことを誓いました。空港を活用したまちづくりを目指して平成25年に提案した「エアポート都市構想」でも、スポーツツーリズムの推進を掲げています。国際大会の開催やキャンプの受け入れは、これらのまちづくりの理念に

市内の主なスポーツ施設と開催イベント

施設名	行事
市体育館	バドミントン日本リーグ2012千葉大会、バスケットボール女子日本リーグ[Wリーグ成田大会]
中台運動公園陸上競技場	2002年FIFAワールドカップサッカー ドイツ・ナイジェリアチーム試合直前練習、サッカー日本代表「ジーコジャパン」合宿、サッカーなでしこリーグなど
中台運動公園野球場	全日本総合女子ソフトボール選手権大会
中台運動公園球技場	全国高等学校ラグビーフットボール大会千葉県予選
大谷津運動公園野球場(休場中)	全国高等学校野球選手権大会千葉大会
下総運動公園サイクルロード	CTUデュアスロン大会
ナスパ・スタジアム	プロ野球イースタンリーグ成田スカイシリーズ

主な競技会の開催実績

平成17年	全国高等学校総合体育大会ソフトボール・柔道・卓球
平成20年	関東高校ソフトボール大会、関東綱引き選手権
平成21年	アジア野球選手権大会、全日本総合女子ソフトボール選手権大会
平成22年	国民体育大会ゴルフ・ソフトボール・柔道、全国障害者スポーツ大会ソフトボール・グランドソフトボール・フットベースボール
平成25年	全国社会人ゲートボール大会
平成26年	全国高等学校総合体育大会柔道・少林寺拳法、世界サンボ選手権大会



五輪ブームの 波に乗れ

独自の取り組みを続けていた本市に、大きな転機が訪れます。それは、「2020年夏季オリンピック・パラリンピック」の東京開催の決定でした。



インタビュー スポーツ施設の管理者に聞きました

海外遠征前の調整に利用多数

空港から近いので、スポーツ選手が海外遠征の前に調整で市内の施設をしばしば利用します。中でも中台運動公園陸上競技場では、陸上競技のほか、サッカーやラグビーなども行われます。最近だと、女子サッカーの澤穂希選手も来たんですよ。利用者には、天然芝の手入れが行き届いていると言われます。合宿の問い合わせも多いので、

宿泊施設などと連携して、市内観光に結び付けていきたいです。また、陸上競技場は市民の皆さんが普段あまり入る機会のない施設でもあるため、7月21日～8月31日、競技場内で「夏休み健康ラジオ体操」を行いました。参加者の皆さんは、体操のほかに芝生の上でウォーキングやジョギングを楽しんでいました。



成田市スポーツ・みどり振興財団理事長
わたなべ 渡部 辰幸さん

まさに合致します。
このため市では、キャンプ誘致を積極的に進めることにしました。

成田の強みはこれだ

誘致に当たっての本市の一番の強みは、国際空港を有し、圏央道が開通するなど、交通アクセスがよいこと。LCCの就航により、全国各地への移動がさらに便利になりました。また、空港周辺のホテル・旅館の部屋数が全部で約8,000室に上るなど、選手を受け入れる宿泊施設も豊富です。

選手の練習会場となるスポーツ施設も充実しています。ナスパ・スタジアムでは、プロ野球イースタンリーグの試合が毎年開催されています。中台運動公園陸上競技場では過去に、サッカーやラグビーの日本代表チームの練習が行われてきました。このほかにも、市内のスポーツ施設で数多くの競技会を開催した実績があります(6ページ)。

また、本市は印旛沼や里山の豊かな自然にも恵まれています。海外から来る選手にとって、飛行機を降りてすぐの場所で練習やリフレッシュができるのは、キャンプ地として非常に望ましい環境といえます。

これらの強みをアピールしながら、県や周辺市町と協力して誘致を進めた結果、ことし8月に2つのイベントが市内で開催されました。



①



②



③



⑤



④

- ①ナスパ・スタジアム(成田スカイシリーズ)
- ②下総運動公園サイクルロード
- ③市体育館(世界サンボ選手権大会)
- ④中台運動公園陸上競技場(サッカー日本代表合宿)
- ⑤大谷津運動公園野球場(全日本総合女子ソフトボール選手権大会)

インタビュー 宿泊施設の関係者に聞きました



成田ビューホテル執行役員総支配人
遠藤 雅之さん

一流選手のキャンプにも対応

トップアスリートの合宿やキャンプを受け入れるには、ジムやスイミングプールといった施設や、栄養バランスが良く、品数豊富な食事の提供が必要です。また、練習の合間に選手が部屋でリラックスできるよう、部屋の清掃時間を変更するなど、柔軟な対応も求められます。このため、どんなホテルでも受け入れられるわけではありま

せん。その点、市内の宿泊施設は種類が豊富で部屋数も多いので、トップアスリートのキャンプから学生の部活の合宿まで幅広く対応できます。アスリート以外でも、航空会社の乗務員などは、長時間のフライトに耐えられるよう、健康維持に運動を欠かしません。観光しながらジョギングを楽しめるコースがあれば、紹介していきたいです。

そして成田も走り出す

ことし8月に市内で行われた、世界少年野球大会千葉大会と、世界陸上北京大会アメリカ代表チームの事前キャンプ。ボランティアの協力を得て、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みが始まりました。

2つの国際的イベントが実現

8月2日～10日に開催された世界少年野球大会は、日米のホームラン王、王貞治さんとハンク・アーロンさんが、世界の子どもたちの友情と親善の輪を広げようと25年前に始めたものです。今回は世界各国から340人の少年少女が参加。ナスパ・スタジアムで交流試合が、中台運動公園野球場・球技場で野球教室が行われました。

8月10日～20日に実施された世界陸上事前キャンプは、本市・佐倉市・印西市の3市が会場。8月17日には、市民との交流を図ることを目的に、市内の練習会場である中台運動公園陸上競技場のメインスタンドが一般開放されました。午後には代表選手やコーチが小学生に走る・跳ぶ・投げるといった



荷物を運ぶボランティアに「サンキュー」(世界陸上事前キャンプ)



アメリカ人コーチの見守る前でジャンプ(Run Jump Throw)



僧侶に会ってご満悦(世界陸上事前キャンプ)



ボールの握り方はこうだよ(世界少年野球大会)

Run Jump Throwに参加

うたな
北井 詞奈さん(向台小)

実際に見る選手の走りは、力強く迫力がありました。体が大きくて、少し怖い印象でしたが、休憩時間にいきなり踊り始めるなど、陽気な面が見られて楽しかったです。世界陸上でも、アメリカ代表選手を応援しました。



Run Jump Throwに参加

けぐち あらた
毛口 颯太さん(桜田小)

選手と一緒に腕立て伏せをしましたが、スピードが速くて、誰も付いていけませんでした。ぼくも陸上でハードルをやっています。選手を間近で見て、いつかオリンピックに出られたらいいなと思いました。



世界陸上事前キャンプでは、代表選手に最高の練習環境を用意しようと、多くの市民ボランティアが奔走しました。延べ人数は約400人。

中でも市内の高校の陸上部員たちは、ハードルやテントなど用具を設置したり、次々に会場入りする代表メンバーの荷物を持ちたりして、練習を支えました。ほかにも成田国際高校の生徒が通訳補助ボランティアとして練習会場やホテルなどで活動しました。

練習補助ボランティアを務めた高校生の1人は、「暑くて大変だったけど、選手やコーチがねぎらいの言葉を掛けてくれたので、やりがいを感じました」と話していました。

市民が支えた舞台裏

動作を教える「Run Jump Throw」も開催され、本市・佐倉市の小学生170人が参加しました。

アメリカ陸上競技連盟が主催するRun Jump Throwが、アメリカ以外で開催されるのは、今回が初めて。キャンプ受け入れに対する、同連盟の最高の感謝の気持ちが表されたイベントだといえます。

また、世界少年野球大会・世界陸上事前キャンプの両方で、成田山新勝寺の見学など、市内観光を実施。参加者は御護摩祈禱の体験などを楽しみました。

主催者からのメッセージ



王 貞治さん

（世界少年野球推進財団理事長）

理想的だった成田での開催

世界少年野球大会千葉大会の開催に当たっては、市長をはじめ、市民の皆さんに快くご協力いただいたことを感謝します。皆さんに歓迎してもらい、子どもたちも大変喜んでいました。世界少年野球大会は、ことしで25年目を迎えましたが、毎回、世界各国から集まる子どもたちが自宅に無事に帰るまで、安心できません。国際空港を持ち、素晴らしいスポーツ施設が整備されている成田市での大会の開催は、子どもの移動の負担も少なく、理想的でした。

大会期間中に参加者にぜひ見てもらいたかったのが、成田山新勝寺。交流行事の一つとして、境内を見学したのですが、その荘厳さに外国の子は驚いたようです。忘れられない思い出になったのではないのでしょうか。

参加者とボランティアに聞きました

世界少年野球大会に参加

かめざき けいいち
亀崎 圭市さん（本城小）



野球教室で一番楽しかったのは、フィジーの子どもとチームを組んで、試合をしたことです。ぼくがヒットを打ったら、「カメ、ナイスバッティング」とハイタッチしてくれました。フィジーの子とは大会期間中、生活する部屋も一緒でした。言葉は通じなかったけど、トランプなどで遊ぶうちに仲良くなって、別れるのがつらかったです。

世界陸上事前キャンプで 練習補助ボランティアを経験

し お
飯田 詩央さん（成田高校）

一流選手の練習を間近で見られるのは初めてだったので、うれしかったです。ハードルを並べるときは、どのレーンのどのコーナーに並べるかを細かく指示され「世界のトップを狙う選手は調整も繊細なのだな」と感じました。5年後には東京オリンピックがあります。わたしも選手として出場したいです。



Run Jump Throwで 通訳補助ボランティアを経験

とまつり ひかる
戸祭 光さん（成田国際高校）



選手が英語で説明しながら見本を見せるのを、日本語に訳して小学生に伝えました。選手に直接話し掛けるチャンスがなかったのが残念です。将来の夢は、成田空港で英語を使う仕事に就くこと。選手同士が会話しているのを聞いていて、日常で使う表現をもっと学ぶ必要があると感じました。

五輪開催後も旅行者を

世界陸上事前キャンプに参加したアメリカ人選手たちは、成田での練習環境について「施設が整っていて、素晴らしい」「食べ物を好みに合わせてくれて、ありがたかった」と口々に答えていました。中には「北京に向けて日本を去るのが悲しい」という選手も。成田のおもてなしが、選手たちの心に好印象を残したのは間違いありません。

今回、世界陸上事前キャンプを受け入れた目的の一つは、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致へ向けた実績を作ることでした。さらに、本市にはスポーツをする環境が整っていることを全世界にPRして、大会開催後もキャンプや合宿を受け入れ、より多くの旅行者を取り込もうという狙いもあります。

あなたが支える スポーツツーリズム

一方で、合宿やイベントの開催によって、市民がスポーツ施設を使用できない、さまざまな規制により不便な思いをするなどの懸念があります。またイベントの規模が大きくなるほど、それを支えるボランティアも必要。スポーツツーリズムを推進するには、市民の皆さんの理解と協力が不可欠です。では、スポーツツーリズムは市民の



皆さんと 目指すゴール

キャンプや国際大会を誘致して、スポーツツーリズムを推進する意義とは何でしょうか。そして、市民の皆さんの大切な役割とは。



選手に質問されてドキドキ



調整の合間に新勝寺を参詣



市内の高校生が練習をサポート



ファンサービスに感激

皆さんにとってどのような意義を持つのでしょうか。オリンピックの開催が地域にもたらす、良い効果のことを「オリンピック・レガシー」といいます。ここでいうレガシーとは、長期にわたる良い影響のこと。オリンピックに限らず、国際大会などの開催により、本市にも、さまざまなレガシーが残ることが期待されています。

例えば、今回の事前キャンプは、練習補助ボランティアの高校生にとって、一流選手の練習を間近で見られる貴重な機会となりました。通訳補助ボランティアの生徒にとっては、日ごろの勉強の成果を試す格好の場になったといえます。本市を訪れた選手との交流を通して、市民が刺激を受けたり、新しく何かを始めたりすることも、レガシーといえます。

このほかにも、
○一流選手のプレーを間近で見た子どもたちが将来、自身も選手になって活躍する

○市民が、市に誇りと愛着を持つ
○大会などのボランティア活動を通して、困っている人を支援する土壌が
つくられる

などの効果が期待できます。

オリンピック・パラリンピックを迎えた後、どのようなまちが出来てほしいか、これから皆さんも一緒に考えていきたいと思います。



黒川 悦子さん(下方)

視覚障がい者支援のボランティアをしています。パラリンピック開催までに、市民一人一人に、障がい者の気持ちになって、まちで歩きづらい場所がないか探したり、困っている障がい者への声の掛け方を学んだりしてほしいです。ここで身に付けた知識や経験は、大会後も役に立つ財産になるのではないのでしょうか。



有賀 正悟さん(仲町)

新勝寺の参道で生まれ育ったので、東京オリンピック・パラリンピックでは空港を利用する旅行客に、まちなかにもぜひ来てもらいたいです。外国人旅行客は、日本食をおいしい日本酒と共に味わいたいと思っているはず。それらが空港やホテルから近い成田にあることを積極的に伝えていきたいですね。



石田 乃莉子さん(川栗)

大学で英語を勉強しています。海外のキャンプを受け入れることで、成田がよい場所だと世界にPRできるし、その国と国際交流が盛んになるのではないかと期待しています。また、市民一人一人が旅行客とコミュニケーションを取るようにして、「成田に来て良かったな」と思ってもらえるようになればいいと思います。

まちの人に聞きました これからのスポーツツーリズム、あなたはどのように考えますか？



西村 洋祐さん
(公津の杜)

地域のランニングサークルに所属して、トリムコースや中台運動公園陸上競技場を走っています。アメリカ代表選手が走ったと知り、同じ場所を踏めるなんて、と練習に熱が入りました。キャンプが誘致できるのは、市のスポーツ施設が充実していて素晴らしいということ。市民にも、それをもっと知ってもらいたいと思います。その結果、スポーツに取り組む人が増えるといいですね。

ワシリエワ
アレブティナさん
(中台)

ロシア出身で、日本に住んで22年たちます。体を動かすのが好きなので、来日当初からロシアでは珍しかったサイクリングなどを楽しみ

ました。でも、外国人には漢字が大きな壁。施設の案内に少しでも英語表記があると、本当に助かります。また、柔道や剣道、相撲など、日本ならではのスポーツを簡単に体験できる場所があると、外国人旅行客は絶対に喜ぶと思います。



選手も市民も楽しめる環境を

スポーツツーリズムのあり方や推進する上での注意点を、成田高校出身でスポーツジャーナリストの増田明美さんに聞きました。

スポーツツーリズムを どのように楽しんでいますか

取材などで海外・国内合わせて年20回くらい旅行する今も、毎日1時間のジョギングが日課です。旅先では、ホテルにある観光マップを見て、観光名所を走っています。看板や案内表示が少なく、途中で道に迷うことも。看板や案内表示が分かりやすいのも、おもてなしの一つですね。

また、観光地でウォーキングやジョギングのモデルコースが紹介されていると、旅行者も気軽に楽しめるため、喜ばれるのではないのでしょうか。

アスリートにとって うれしいおもてなしは

現役時代、合宿で訪れたまちの人が空港で横断幕を持って迎えてくれたことが、うれしい思い出です。大きな大会を控えて、初めての土地を訪れる選手は不安な気持ちでいます。歓迎されているのが分かると、安心すると同時に大きな励みになりますね。

選手もまちの人との交流を楽しみにしていると思います。ただ、練習スケジュールに影響が出たり、集中を削がれてしまったりすることがあると、その地域の印象が悪くなってしまう。厳しい練習をやり遂げて、ほっとしているときに交流が図れると、選手にとってもリフレッシュになるので、練習の都合に合わせて交流イベントを計画されるといいですね。特に外国人選手にとって、日本文化を体験することは、人生の忘れられない思い出になると思います。

スポーツツーリズムが 市民に与える影響は

選手と交流し、親しみを感ずること、スポーツを観るのはもちろん、「自分もやってみようかな」という気持ちで市民の皆さんに生まれるのではないのでしょうか。交流をきっかけにスポーツを楽しむ人が増えて、健康づくりにつながっていくと思いますね。

そのため、スポーツ施設を建設・改修するときは、トップアスリートの合宿や大会の開催だけではなく、その後に市民が活用する様子をイメージして設計することが大切です。海外の競技場ではウッドチップを敷き詰めた遊歩道が設置されていることが

多く、遊歩道でウォーキングしている人の横をオリンピック選手が走り抜けるような光景をよく見掛けます。トップアスリートのためだけではなく、市民が気軽にスポーツを楽しめるような環境づくりができるとすてきですね。

成田だからできる おもてなしは

東京オリンピック・パラリンピックでは、世界中から訪れる人の多くが、成田に降り立ちます。国や宗教・文化によっては、男女間での握手がタブーとされることも。例えば、イスラム圏のハラルフードや礼拝のしきたりを理解するなど、市民の皆さんがさまざまな国の習慣や文化を学んで旅行者に接することが、大切だと思います。

普段から外国人と交流する機会の多い成田なら、こうした国際理解の促進は取り組みやすいでしょう。国際都市成田ならではのおもてなしにつなげてほしいと思います。

増田 明美さん

スポーツジャーナリスト。長距離種目で次々に日本記録を樹立し、ロサンゼルスオリンピックで女子マラソンに出場。引退するまでに日本最高記録を12回、世界最高記録を2回更新しました。現在は大阪芸術大学教授、全国高等学校体育連盟理事、日本障がい者スポーツ協会評議員なども務めています。



4年後にラグビーワールドカップも



成田市ラグビーフットボール協会
藤倉 健さん(幸町)

たくさんの方にラグビーの魅力を知ってもらおうと、成田ラグビーフェスティバルを毎年6月に開催しています。こうしたイベントや選手との交流を機に、より多くの市民がスポーツを楽しみ、健康への意識が高くなるとうれい

ですね。
4年後に日本で開催されるラグビーワールドカップでも、キャンプを誘致できるよう、わたしたちも協力していくつもりです。

ラグビーワールドカップで

は、決勝リーグに残るチームは約2カ月間キャンプ地に滞在することになります。ほかの競技より滞在期間が長い分、選手団が市内を観光したり、市民と頻繁に交流したりすることが期待できます。

一方で、キャンプ中はスポーツ施設を市民が使えなくなるなどの問題も。皆さんに理解してもらうために、市は、どんなチームがキャンプするのか、何のために受け入れるのかを、積極的に市民に伝える必要があると思います。



特集の終わりに

9月末に取材で中台運動公園陸上競技場に行ったときのこと。アメリカ代表選手たちが走ったトラックで練習する、地域の陸上クラブの子どもたちに出会いました。実際に選手が走るのを見たという彼らの胸には、大きな憧れとふるさとを誇りに思う気持ちがしっかりと芽生えたはずで

す。未来のオリンピック選手を目指す子どもも現れるかもしれません。こういったことも、スポーツツーリズムを推進する意義ではないでしょうか。

今後、3年後の世界女子ソフトボール選手権、4年後のラグビーワールドカップなど、大規模な国際大会の日本開催が続きます。
一方で、東京オリンピック・パラリンピック後の展開については、まだ手探りの状態。皆さんのご理解とご協力をいただけるよう、今後も市の取り組みを、分かりやすく広報していきたいと思っています。